（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営学基礎論b	4 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
藤 沼　司 FUJINUMA Tsukasa	**時間:**最初の講義で提示 **場所:**603 研究室	講 義

〔科目の概要〕

経営学で学ぶ「経営（management）」とは、広い意味では「扱いにくいモノや事柄を首尾良く取り扱うこと」である。その点では、世の中のあらゆる（と言っていいほどの）モノや事柄が、経営される必要がある。大学での経営学関係の科目では企業の経営が取り上げられることが多いが、企業に限らず、自治体や非営利組織（NPO）、病院や教育機関、そして家庭でさえ（これらは、しばしば「組織体」と一括して呼ばれる）も、「経営」なくしては、成り立たない。

経営学基礎論では、それらの組織体を、「経営する（首尾良く取り扱う）」ための基本的な考え方を学習していく。組織体、とりわけその具体的な形としての企業は、「ヒト、モノ、カネ、そして情報」という構成要素からなると言われるが、いくら優秀なメンバーや豊富な資金があっても、それらの構成要素がバラバラでは、良い成果に結びつくことはない。より良い成果を得るには、構成要素が統合・調整（これこそが「経営」）されることが必須要件となる。

この統合・調整が行われる「場」が「組織（正式には、公式組織）」であると考えて、そこから様々な経営に関わる事柄を見ていくのが、「現代組織論」と呼ばれている考え方であり、この講義もその考え方に基づいている。

可能な限り授業スケジュール通りに進めるよう努力するが、受講生の状況によっては変更が生じうることを、あらかじめ理解しておいてほしい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

〔科目の概要〕で述べたように、「組織（公式組織）」という場を通じて、「ヒト、モノ、カネ、情報」といった企業をはじめとする組織体の構成要素が調整されていくのだが、そこで調整される構成要素の性質に応じて、調整の具体的な方法は異なってくる。それぞれの構成要素の性質・特質を詳しく見て行き、その性質・特質に応じた調整の具体的な方法を考えるのが、経営学関連の他の科目と言える。たとえば、ヒトであるなら「人事管理論・人的資源管理論」等、カネであるなら「財務管理論」等、モノであるなら「生産管理論」等、といった具合である。「会計」は、それらの構成要素がどのように動いているのかを、主に（あくまで「主に」だが）、その動きと表裏一体である貨幣の動きにそって記録することと言える。その記録が正確であればあるほど、それに基づいてより良い調整の仕方を見つけることができるようになる。会計学関連の科目は、このようにこの科目と関係している。

上に述べたように、大学で開講されているほとんどの科目と関連している科目であり、その点で、まさに「基礎」として学ぶ必要があると言えるが、学習面以外でも次のように言える。すなわち、社会に出てからにとどまらず、学生生活を送っていくうえでも、ヒト、モノ、カネ、情報を首尾よく活用してこそ、生活の質を向上させることができる。クラブ活動やボランティア・サークルなどを思い浮かべてほしい。このように、経営学の考え方は、より良い生活を送るために誰もが身につけておくべき「教養」でもあるという点で、日々の生活にも結びついている。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

経営学で用いられる言葉の多くは、日常的に用いられる言葉でもある。しかし、経営学の脈絡で学問的に語られるときには、日常的な感覚にとどまっていては理解できない場合が、多々ある。したがって、経営学で用いられる多様な言葉と、その意味内容、そしてそれらの使用方法を充分に理解することが、さしあたりの目標となる。

上記した経営学的な概念を、社会で起こっている経営上の諸問題に当てはめて考えられるようになるのが、次の目標である。これは授業で学習した内容の例を、自分自身で探し出せるようになる、ということでもある。

経営上の諸問題に対する答えが1つであることは、実は、全くと言っていいほど、ない。そのような問題を経営学上の概念を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考えを導けるようになるというのが、ここでの最終的なねらいである。

今後、みなさんは経済学を主として学んでいくことになるわけだが、経営学との違いを意識することで、経済学の学修の促進にも役立つことを目指す。また、「もっと経営学を学びたい」という動機づけになることを密かに期待する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

板書する際には、可能な限り、見やすく書くようにする。また、声量や聞き取りやすさにも、注意する。

板書や声量に関しては、その場で解決できることが多いので、積極的に申し出てほしい。

〔教科書〕

庭本佳和／藤井一弘編著〔2008〕『経営を動かす― その組織と管理の理論 ―』文眞堂。

〔指定図書〕
必要なときに提示する。

〔参考書〕
経営学史学会編〔2012〕『経営学史事典［第2版］』文眞堂。
経営学史学会監修『経営学史叢書(全14巻)』文眞堂。
藤沼　司〔2015〕『経営学と文明の転換 ― 知識経営論の系譜とその批判的研究 ― 』文眞堂。
その他、必要なときに提示するが、上記〔教科書〕の各章末の「参考文献」は意識しておくこと。

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断する。
- 確認テストおよび定期試験(筆記試験)
- 講義内レポート(講義内レポートは不定期に実施することがある。)
- その他

詳細は、第1回目の講義の際に説明する。

〔評価の基準及びスケール〕

評価基準は、「学生便覧」にある通り。
A:80点以上　、B:70点以上、C:60点以上、D:50点以上、F:50点未満
なお、配点などの詳細については、最初の講義の際に提示する。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義では、学生のみなさんに対し、単なる「出席」ではなく、むしろ積極的な「参加」を期待する。
つねにみなさんに問いかけるよう心がける。みなさんには、問いかけに対する積極的な応答を期待する。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):経営学とは、どのような性格の学問か。 内　容:特に、企業の経営に注目して、「企業」、「経営」、そして「事業」といった類似の言葉に注目しながら、「経営」の意味内容について考える。 教科書・指定図書:『教科書』序章およびノート講義
第2回	テーマ(何を学ぶか):「経営」のイメージをもつ 内　容:事例紹介 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):企業はどのように発展してきたか(1) 内　容:企業形態の歴史的展開の背景① 教科書・指定図書:ノート講義
第4回	テーマ(何を学ぶか):企業はどのように発展してきたか(2) 内　容:企業形態の歴史的展開の背景② 教科書・指定図書:ノート講義
第5回	テーマ(何を学ぶか):企業はどのように発展してきたか(3) 内　容:主たる企業形態の種類とその歴史的展開 教科書・指定図書:ノート講義

第6回	テーマ(何を学ぶか):企業は誰が所有し、支配しているのか 内　容:所有と経営との分離／企業の行動原理の変容 教科書・指定図書:ノート講義
第7回	テーマ(何を学ぶか):現代の巨大企業の主な特徴 内　容:巨大株式会社の登場とその特徴 教科書・指定図書:ノート講義
第8回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史 内　容:日本の経営学の源流―ドイツ経営学とアメリカ経営学― 教科書・指定図書:ノート講義
第9回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(1) 内　容:経営学が、なぜ、学問として成立する必要があったのか。経営学成立以前の「成行管理」の時代について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義
第10回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(2) 内　容:経営学が、なぜ、学問として成立する必要があったのか。経営学の嚆矢をなす F.W.テイラーの「科学的管理」について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義
第11回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(3) 内　容:前回に引き続いて、その後の経営学の発展の中から、主にH.フォードの大量生産体制の成立について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義
第12回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(4) 内　容:前回に引き続いて、その後の経営学の発展の中から、主に「人間関係論」という経営理論について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義
第13回	テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(5) 内　容:前回に引き続いて、その後の経営学の発展の中から、主に M.P.フォレットの経営思想について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義
第14回	テーマ(何を学ぶか):これまでに学んだ経営理論を具体的に適用する 内　容:事例紹介 教科書・指定図書:
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ 内　容:第14回までの授業を振り返り、確認のためのテストを行う。 教科書・指定図書:
第16回	テーマ(何を学ぶか):現代組織論(バーナード理論)の概説(1) 内　容:現代組織論の基盤となっているバーナード理論の全体像と、その中の「人間論」と「協働論」の大枠について説明する。 教科書・指定図書:『教科書』第1章およびノート講義
第17回	テーマ(何を学ぶか):現代組織論(バーナード理論)の概説(2) 内　容:前回に引き続いて、その「組織論」と「管理論」の概略を論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第1・2章およびノート講義
第18回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(1) 内　容:公式組織を存続させるための管理職能(役割)の1つである「意思決定」について説明する。 教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義

第19回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(2) 内　容:公式組織が存続していく過程で必要とされる組織構造(コミュニケーション・システム)の設計について考える。 教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義
第20回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(3) 内　容:前回で学んだ「組織構造」が、良好に機能するために不可欠な「組織における権限・権威」の問題について考える。 教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義
第21回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(4) 内　容:公式組織存続のための、もう1つの管理職能である「モティベーション(動機づけ)」を取り扱う。 教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義
第22回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(5) 内　容:組織体の長期的存続のために必要とされる「道徳的」リーダーシップについて論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第2・3章およびノート講義
第23回	テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(6) 内　容:リーダーシップについての一般的な理解の仕方と比較しながら、バーナードの言う「道徳的リーダーシップ」の特徴を考える。 教科書・指定図書:『教科書』第3章およびノート講義
第24回	テーマ(何を学ぶか):これまでに学んだ理論を具体的に適用する 内　容:事例紹介 教科書・指定図書:
第25回	テーマ(何を学ぶか):経営と社会の関わり 内　容:企業は本来、社会にとって有用な財やサービスを提供することで、社会の役に立つために存在するが、社会から非難される行動をとることもある。これを「道徳的リーダーシップ」と関連づけて論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第11・12章
第26回	テーマ(何を学ぶか):経営学における環境への注目(1) 内　容:経営学において「環境」という側面が注目されるようになった経緯と、そこから成立した経営学上の考え方、特に経営戦略論について論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第4章およびノート講義
第27回	テーマ(何を学ぶか):経営学における環境への注目(2) 内　容:経営学において「環境」という側面が注目されるようになった経緯と、そこから成立した経営学上の考え方、特にマーケティング論について論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第4章およびノート講義
第28回	テーマ(何を学ぶか):経営学における文化への注目 内　容:1980年前後から経営学において「文化」という概念が注目を集めるようになった。その歴史的背景とそこでの「文化」のとらえ方について論じる。 教科書・指定図書:ノート講義
第29回	テーマ(何を学ぶか):経営学における情報・知識・学習への注目(1) 内　容:経営における情報や知識の重要性は言うまでもない。それらと関連して、組織における、ないしは組織の学習という考え方が浮上してくる。経営学はそれをどのようにとらえてきたかについて見ていく。 教科書・指定図書:『教科書』第7・8・9章およびノート講義
第30回	テーマ(何を学ぶか):経営学における情報・知識・学習への注目(2) 内　容:経営における情報や知識の重要性は言うまでもない。それらと関連して、組織における、ないしは組織の学習という考え方が浮上してくる。経営学はそれをどのようにとらえてきたかについて見ていく。 教科書・指定図書:『教科書』第7・8・9章およびノート講義
試　験	